解　説

J. Jpn. Soc. Colour Mater., **87**〔3〕，94–97（2014）

—小特集　環境配慮型の印刷インキのトピックス—

省電力型UV印刷機対応の高感度UVインキ

村中昭夫*,†

*東洋インキ㈱プリンティング技術統括部技術3部第1課　埼玉県川越市栄1番地（〒350-0803）
† Corresponding Author, E-mail: akio.muranaka@toyoinkgroup.com

（2013年12月2日受付，2014年1月7日受理）

要　　旨

近年の印刷市場は，インターネットの普及にともなう情報のデジタル化，メディアの多様化，景気低迷により縮小傾向にある。一方，人や地球に対する環境対策は企業責任となっている。今回，印刷産業の維持，発展，環境対策として，オフセット印刷業界では省電力型UV印刷システム（紫外線硬化型印刷システム）が普及し，それに対応した高感度UVインキ（紫外線硬化型インキ）が開発されたので紹介する。

キーワード：省電力，高感度，印刷，インキ，UV（紫外線）

1. はじめに

近年の印刷市場は，印刷産業の事業所数と出荷額の推移を見ると，2002年に3.7万事業所数，7.6兆円規模の出荷額は，2011年には2.6万事業所数，5.7兆円規模の出荷額で，約25％減少している（図-1）。

また印刷インキの生産量を見ても，2006年のピーク時は46万トンあったが，2012年には37万トンとなり，約20％減少している（図-2）。

その理由の一つは，インターネットの普及にともなう情報のデジタル化とメディアの多様化により，雑誌や書籍などの紙媒体が減少していること。もう一つは，2008年9月に発生したリーマンショックや，2011年3月に発生した東日本大震災による景気低迷の影響が考えられる。

また近年の環境対策として，印刷インキ工業連合会では，健康の確保と地球環境の保護に調和した技術および製品の提供を推進しており，植物油インキ，ノンVOCインキなどの環境対応型インキの提供や，自主的取り組みとしてVOC排出量削減を推進している。このように，業界が独自に基準を設け規制することで，人や地球に対する環境対策を行っている。

本稿では，印刷産業の維持・発展のため，オフセット印刷業界とインキメーカーの取り組みについて述べる。

2. オフセット印刷業界の動向

紙媒体が減少するなか，いかに仕事を確保するかが印刷業界の課題である。その課題を解決するためには，クライアントへの新たな提案や要求を満たすことが重要で，それは高品質，高

〔氏名〕むらなか　あきお
〔現職〕東洋インキ㈱プリンティング技術統括部技術3部第1課 課長
〔趣味〕スポーツ
〔経歴〕1991年北海道大学水産学部水産化学科卒業。同年東洋インキ製造㈱入社。電子材料などの特殊インキの開発，オフセット新聞インキの開発を経て，現在，紫外線硬化型インキ・ニスの開発に従事。

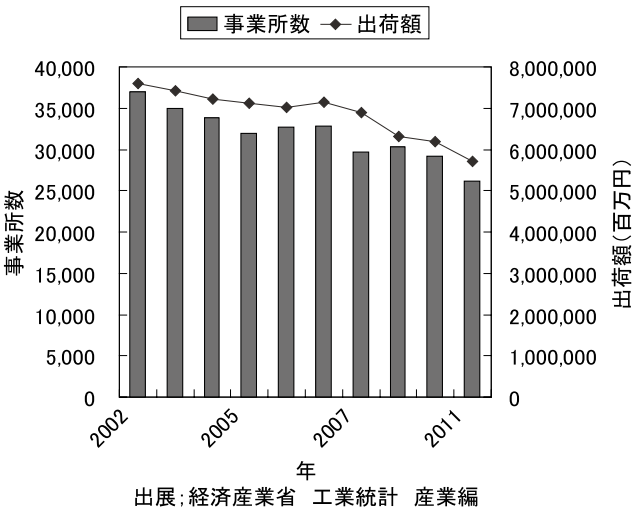

図-1　印刷産業の事業所数と出荷額

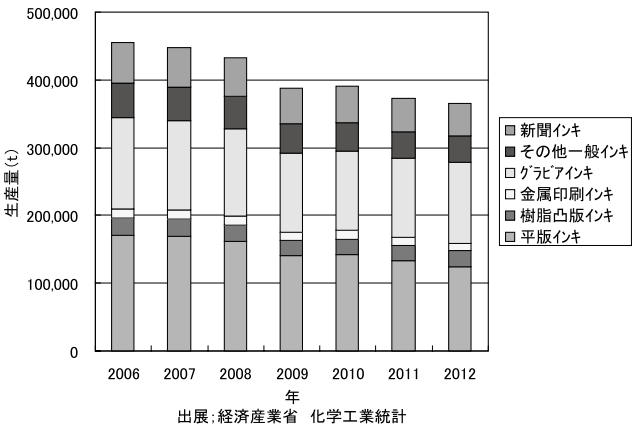

図-2　印刷インキの生産量

© 2014 Journal of the Japan Society of Colour Material